

Q.余震は、いつまで続くの？

余震とは、そもそも大地震で生じてしまった歪みを戻そうとして、起こっているものです。

ですから、大地震のあとには、必ず、余震は、おこります。

そして通常、余震が完全になくなるまでには、何年もかかるのです。

しかしながら、余震の続く期間は、過去のデータからも、本震の規模に比例するものでもない事が、わかっており、余震期間を予測する事は、非常に難しいのが、現状です。

ちなみに、阪神淡路大地震では、1カ月後には、体感余震がなくなっています。

一方、新潟中越地震の際は、56日後に、M5以上の予震が、みられたりしています。

いずれにしても、今回の東日本大地震の場合は、過去に例を見ない巨大地震であり、長野県と静岡県プレートのプレートも動いている地震のため、余震がおさまるには、時間がかかると思われます。引き続き、余震には、警戒をしておくべきでしょう。

気象庁も、今後、M7ほどの余震の可能性がある事を示唆しています。

Q.東海地震に発展する？

東日本大地震は、太平洋プレートとユーラシアプレートが、ぶつかる所で起きました。

一方、東海地震のメカニズムは、太平洋プレートとフィリピン海プレートが、ぶつかる所で起きるものです。つまり、本来2つの地震の原因は、異なるものでありますので、大丈夫ですと、いいたいところですが、今回、巨大地震であった事。これにより、広い地域に歪を生じており、それによる余震が、更に新たな歪を生んでいる事も考えられるため、他のプレートに起因する地震をも誘発する可能性は、否定できないと考えられます。しかし、誘発の程度ですが、100年後の予定であれば、2年縮める程度のものと、専門家は、説明しています。

Q.放射性物質って、どこまでとぶ？

火山灰が、遠くまで飛ぶように、放射性物質も、空中の塵や埃、水蒸気、その他の空中を浮遊する小さな物質にくっついて、国内外へと拡散すると思われま。

しかし、拡散により、薄くなるので、今の段階では、環境汚染を心配するほどのレベルではないと考えられています。

拡散する方向は、その時の風向きが、大きく影響します。

Q.食物への影響

放射性物質の放射線を出し続ける期間は、おおよそ半減期で、推測されます。ヨウ素の場合、半減期は、8日です。

8日でもって、放射線量が、半分になると言う事です。

放射性ヨウ素は、ガス状で存在します。呼吸を通じて、体内に入ると、甲状腺に集まり易く、長期間、蓄積された場合は、甲状腺がんを引き起こしやすいという事が、指摘されています。

ただし、尿に排泄されやすい特徴もあわせ持ちます。

一方、セシウムは、半減期が、30年と長く、生物の筋肉に取りこみやすいという特徴をもっています。一旦、体内に取り込まれると、染色体や遺伝子の突然変異を起こす事も指摘されます。

しかし、いずれも、がんになる確率が、顕著に確認される放射線量の値は、一度に100ミリシーベルト以上を浴びた時とされており、この環境下にあてはまるものは、原発の敷地内のみです。

そして、例えこの環境下であっても、がんの確率というのは、100人中2人位といわれています。

今後、大気中の放射性物質が、雨と混じり、地面に落ち、植物へ吸収され、あるいは、魚に、家畜にと、食物連鎖によって、生体内へ取り込まれる事は、大いに考えられる事でしょう。飲み水もしかりです。

しかしながら、日本は、食品の安全性においては、大変厳しくチェック機構の働く国です。

放射性物質の危険性をよく知った上で、安全と評価された、食品は、あまり怖がることなく摂取していく事が、大事だと思います。

そうでなければ、現に私達は、何も口にする事が、できなくなります。

私達住民が、より納得がいくように、安心できるように、これまで以上の食の安全確認を公的機関へ、求めていきたいと思います。

Q.停電の輪番制は、いつまで続くのですか？

原発事故により、現在1000万キロワットの電力が、常に不足している状態にあります。

計画停電は、4月まで続けると、言われていますが、これは、暖房が、必要なくなる事を踏まえての予定だと思われます。

ただし、夏は、当然、冷房などにより、再び電力需要量が増えてきますから、今の状態では、再び電力不足になってしまう事が考えられます。

今後、不足している電力を補うため、水力発電量や火力発電量を増やそうとする動きが、みられています。